

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	第15回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会および第12回東邦医学会佐倉内科分科会
別タイトル	15th General Meeting of the Department of Internal Medicine, Sakura Medical Center Toho University
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(1). p.27-34.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	学会抄録(分科会)
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD77095160

第 15 回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会 および第 12 回東邦医学会佐倉内科分科会

2019 年 12 月 8 日 (日) 10 時～17 時 40 分
ホテルニューオータニ幕張 (2 階 ステラ)

開会の挨拶 龍野一郎

第 I 部 学内研究発表

座長 清水一寛, 高田伸夫

A グループ

特発性肺線維症患者の努力性肺活量の経時的低下に対する抗線維化薬の効果

松澤康雄

【対象・方法】特発性肺線維症患者 104 名を対象とし, 抗線維化薬の投与前後における, 年間の努力性肺活量の低下をレトロスペクティブに比較した. 【結果】抗線維化薬投与は, 努力性肺活量の低下を有意に抑制した.

B グループ

スリーブ状胃切除を施行した日本人高度肥満症の背景および術後体重減少不良例の特徴

齋木厚人

多施設うしろ向き研究. スリーブ術後の 322 例を対象とした. 術後の総体重減少率 (% TWL) は 29.9%, 糖尿病寛解率は 75.6%, 多くの健康障害が改善した. % TWL15 未満群では, 糖尿病などの寛解率が悪く, 精神疾患や知的障害の頻度が高かった.

C グループ

ノルアドレナリン誘発性高血圧における血管弾性的変化～麻酔ウサギおよび血管内超音波を用いた検討～

佐藤修司

麻酔ウサギにおいて, ノルアドレナリン投与中の血管弾性変化を cardio-ankle vascular index の測定原理を用い, 弾性血管と筋性血管に分けて検討した. さらに, 血管内超音波を用いて大動脈口径変化からの stiffness parameter β を算出し, あわせて検討した.

D グループ

潰瘍性大腸炎の患者にとって身近な問題を臨床研究で解決する!

松岡克善

潰瘍性大腸炎は患者の日常生活に大きく影響する. 患者にとって身近な問題と病気との関連を調べるためのレジストリを開始した. 2000 名の患者を登録し, 症状, QOL, lifestyleなどを4年間評価する. 本研究は潰瘍性大腸炎の患者にとって身近な問題に対してエビデンスを与えることができると考えている.

E グループ

未治療・早期パーキンソン病における線条体変性と排尿障害の関連についての検討

館野冬樹

比較的早期（発症から5年未満）未治療のパーキンソン病患者49名に対して、1) 排尿症状の問診票、2) 国際禁制学会の指針に従いウロダイナミクスと外括約筋筋電図検査、3) dopamine transporter scans (DAT scan) を施行し検討した。

血液内科

化学療法が動脈硬化進展に与える影響について

清水直美

我々は化学療法が動脈硬化進展に与える影響について着目し、当院で最も頻度の高いB細胞性悪性リンパ腫症例のR-CHOP療法治療経過に伴うCAVI値、血管内皮障害のマーカーとしてフォンヴィルブランド因子(vWF)、頸動脈エコーを測定している。vWFは治療後上昇し、治療終了後に低下する所見が得られた。また治療前後での頸動脈エコーのプラーク指数も有意に上昇している知見が得られている。

腎臓内科

生体腎移植ドナー候補者における血圧測定法とその診断能

大橋 靖

血圧は生体腎移植ドナーの適正評価に重要である。今回、578名のドナー候補者の1) 診察室血圧値、2) 自動診察室血圧値(1分毎に自動的に5回測定した平均値)、および3) 日中の自由行動下血圧測定値を比較した。JNC-7高血圧基準およびACC/AHA高血圧基準に照合すると、自由行動下血圧測定法でそれぞれ90名(16%)と198名(34%)が高血圧症と診断され、カットオフ値を診察室血圧<123/82 mmHg、自動診察室血圧<120/78 mmHgと<119/79 mmHgと<116/76 mmHgに設定した場合、それぞれ感度を79%から87%と32%から87%に上昇させ、陰性的中率を95%と87%にした。

第 II 部 前期1年目研修医発表

座長 野呂真人, 清水直美

1. 抗ARS抗体陽性間質性肺炎の1例

門野洋大

指導医名: 力武はぎの (Aグループ)

70歳男性。約2ヶ月の間に増悪した労作時呼吸苦を主訴に受診。亜急性の経過と臨床所見より強皮症に伴う間質性肺炎が疑われたが、その後の血液検査で抗ARS抗体陽性を認めた。抗ARS抗体症候群を経験したので治療経過も含めて報告する。

2. ビスホスホネートによる重症低Ca血症を呈した好酸球性胃腸炎の一例

藺田哲平

指導医名: 中村祥子 (Bグループ)

好酸球性胃腸炎に対してステロイド治療中の59歳女性。ビスホスホネート開始2週間後にテタニー発作にて来院。採血にて著明な低Ca血症を認め、薬剤の関与が疑われた。既報24例への考察を加えて報告する。

3. 難治性自己免疫性血小板減少症 (ITP) の一例

横山竜大

指導医名: 中村祥子, 清水直美 (Bグループ)

25歳男性。鼻出血、四肢および体幹の紫斑にて来院。血小板0.1万/ μ l, PAIgG陽性からITPと診断。ステロイド抵抗性を示す治療に難渋。部分的脾動脈塞栓術が考慮された一例を経験したので報告する。

4. 大腸粘膜内癌に合併した肝膿瘍の一例

宮里良大

指導医名：菊地秀昌 (D グループ)

77 歳男性。発熱、意識障害を主訴に受診。CT にて肝臓に低吸収域があり肝膿瘍と診断。下部内視鏡で隆起性病変を認め EMR 施行したところ大腸粘膜内癌であった。大腸粘膜内癌に肝膿瘍を合併することは稀であり若干の文献的考察を含め発表する。

5. うっ血性心不全を合併した拡張型心筋症の一例

呉 將禎

指導医名：坪野雅一 (C グループ)

狭心症の既往がある 71 歳男性。2 週間前からの労作時呼吸困難を自覚し受診。当初は虚血性心筋症が示唆されたが、最終的に拡張型心筋症の診断に至った。典型的な拡張型心筋症の一例を経験したため報告する。

6. 喀血をきたして増悪した原因不明の慢性呼吸不全の一例

黒瀬泰子

指導医名：岩崎広太郎 (A グループ)

53 歳男性。約 7 年前からの血痰と原因不明の慢性呼吸不全で HOT 導入していた。呼吸不全増悪と喀血を認めて入院となり、ステロイドで改善した。病歴から特発性肺へモジデローシスが疑われ、文献的考察を含めて報告する。

7. 栄養障害に伴う多彩な合併症を呈し、診断治療に難渋した 1 例

西村定益

指導医名：山口 崇 (B グループ)

幽門側胃切除 (B-I 再建) 術、小腸切除術既往のある 77 歳男性。重症低血糖 (26mg/dL) 汎血球減少に加え多彩な電解質異常を認め、後の精査によりこれら全てが栄養障害に起因するものと考えられた。本例における栄養障害と合併症について、文献考察を交えて報告する。

8. 高度な冠攣縮性狭心症が原因で陳旧性心筋梗塞に至った一例

池田ひとみ

指導医名：戸谷俊介 (C グループ)

83 歳男性。急性心筋梗塞疑いで搬送され緊急冠動脈造影検査を行うも有意狭窄は認めず、壁運動所見からタコツボ症候群を疑い加療したが改善乏しかった。心筋シンチグラフィーで左前下行枝領域の陳旧性心筋梗塞と診断し強心薬追加と運動耐容能評価により自宅退院とした。

9. うっ血性心不全を呈した拡張型心筋症の一例

竹中亮太

指導医名：坪野雅一 (C グループ)

44 歳男性。1 ヶ月前からの安静時呼吸苦と起座呼吸と主訴に受診。初発のうっ血性心不全に対し精査加療を行った。拡張型心筋症の診断に至り、良好な転機を辿った一例を経験したため、文献的考察を交えて報告する。

第 III 部 後期研修医発表

座長 大橋 靖, 齋木厚人

1. CNS 浸潤を伴い、ランダム皮膚生検、TBLB で早期に診断加療し得た IVL の一例

小林 楓

指導医名：清水直美 (B グループ)

76 歳男性。倦怠感、食思不振で受診。血球減少、IL-2R 高値、両肺野のびまん性陰影、脾腫を認めた。皮膚生検、TBLB で IVL の診断至り CNS 浸潤も認められた。中枢病変もカバーした化学療法で順調に加療し得たので報告する。

2. 複数菌感染から診断した感染巣不明の敗血症性ショックの1例

高島健太

指導医名：力武はぎの, 若林宏樹 (A グループ)

79歳女性, 腹痛, 嘔吐で救急搬送され, 感染巣不明の敗血症性ショックと診断された. 血液培養で複数セットから同一菌種が複数回培養された. 複数菌感染の臨床推論を用いて感染巣を特定し, 救命した1例を報告する.

3. Trousseau 症候群による全身血栓症を合併した EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の一例

鹿子木拓海

指導医名：松澤康雄 (A グループ)

70歳男性. Stage IV の EGFR 陽性肺腺癌に対して Erlotinib 内服中に肺血栓塞栓症を発症して入院. 経過中腹部 Angina を合併して, Trousseau 症候群による全身血栓症と診断. 救命, 退院できた希少な症例であり, 文献的考察を加えて報告する.

4. 原発性副甲状腺機能亢進症に伴う急性膵炎の一例

村上 悠

指導医名：古川潔人 (D グループ)

77歳女性. 既往に原発性副甲状腺機能亢進症があり, 腹痛, 食欲不振で来院. 採血上高 Ca 血症認め, 精査の結果原発性副甲状腺機能亢進症に伴う急性膵炎と診断した一例を経験したので報告する.

5. 自己免疫性辺縁系脳炎に対してステロイドパルス2クール後に IVIG 投与し改善した一例

池田裕樹

指導医名：相羽陽介 (E グループ)

63歳女性. 意識障害で救急搬送. 頭部 MRI で左海馬・扁桃系に軽度高信号認め辺縁系脳炎が疑われ, ステロイドパルス施行. 2クール施行したが改善に乏しいため IVIG 投与した所, 著明な改善を認めたため報告する.

6. 侵襲性肺炎球菌性肺炎の1例

内堀 超

指導医名：松澤康雄 (A グループ)

生来健康な49歳男性が呼吸苦を主訴に救急外来を受診. 侵襲性肺炎球菌性肺炎の診断となったが, わずか第3病日で死亡となった激しい経過を辿った症例を経験したので文献的考察を踏まえて報告する.

7. 多彩な凝固異常を呈した高浸透圧高血糖症候群の一例

野中翔矢

指導医名：田中 翔 (B グループ)

74歳男性. 高血糖, 意識障害を主訴に転院搬送. 高浸透圧高血糖症候群の診断で入院となった. 入院経過中に, 播種性血管内凝固, 下肢静脈血栓症, 筋肉内出血をきたし, 多彩な凝固異常を認めた. 貴重な症例と考え報告する.

8. 粘膜性類天疱瘡に管内増殖性糸球体腎炎を合併した一例

石井信伍

指導医名：大橋 靖 (B グループ)

76歳女性. 粘膜性類天疱瘡加療中に蛋白尿, 血尿および浮腫が出現し, 腎生検の結果, 低補体血症を伴う傍メサンギウム領域に沈着物のある管内増殖性糸球体腎炎と診断した一例を経験したので報告する.

第 IV 部 出向中医師発表

座長 松岡克善, 熊野浩太郎

1. MRI 造影 FLAIR 像が肥厚性硬膜炎の診断に有用であった一例

恩田洋紀

指導医名：杉山隆夫（国立病院機構下志津病院）

右頬部痛・顎関節痛・聴力低下し GPA 疑いで当院へ入院となった。血管炎によると考えられる上気道症状と硬膜肥厚がみられた。PSL とリツキサンの治療を開始したところ、MRI では治療前に見られた異常所見は消失していた。

2. 裂頭条虫の駆虫を行い、肉眼的に虫体を確認した一例

関 駿介

指導医名：馳 亮太（成田赤十字病院）

64 歳女性。排便時に紐状の異物排出があり前医を受診、裂頭条虫と診断された。当院に 2 日間入院しプラジカンテルの内服で駆虫を行った。裂頭条虫症という貴重な症例を経験したので、文献的考察を踏まえて報告する。

3. 種々の抗体異常を合併した SLE の 1 例

山岡周平

いすみ医療センター/聖隷佐倉病院

68 歳、男性。衰弱を主訴に受診。炎症所見も高く精査加療目的で入院となる。その後の検査で何らかの免疫疾患と考え治療開始していたが入院中に腸管穿孔を発生し死亡となった症例について考察を交えて報告する。

4. 診断が困難だったマダニ刺咬症の 1 例

内藤大輔

指導医名：佐野英樹（いすみ医療センター）

69 歳女性。4 月に野外活動時にマダニ咬傷を受傷し受診。当初局所症状乏しく非特異的の症状のみであり診断が遅延した教訓的症例。近年増加傾向である SFTS の原因となる本症を多少の文献的考察を交えて報告する。

5. 関節痛を伴った渡航者発熱の一例

日高 舞

指導医名：栗田崇史（成田赤十字病院）

48 歳、女性。ミャンマーで NGO 活動に従事し、成田空港到着後に検疫所で発熱を指摘され、PCR 検査でチクングニア熱と診断された。チクングニア熱では関節症状を伴い、関節炎の所見もみられる。チクングニア熱の疫学、病態、治療について文献的考察を交えて報告する。

6. Wolff-Parkinson-White 症候群の副伝導路離断後に早期再分極症候群と考えられた一例

杉崎雄太

済生会横浜市東部病院

心肺停止後蘇生に成功した症例。当初、偽性心室頻拍が心肺停止の原因とされていたが、WPW 症候群のカテーテルアブレーションの結果、早期再分極症候群による心室細動が原因であるとの結論に至った一例を報告する。

第 V 部 今年度優秀論文賞（白井賞）

座長 榑原隆次, 授与 白井厚治

田中 翔

Fatty acid desaturase 2 is up-regulated by the treatment with statin through geranylgeranyl pyrophosphate-dependent Rho kinase pathway in HepG2 cells

Shou Tanaka, et al.

第VI部 特別講演

座長 龍野一郎

講師：川合眞一 先生

東邦大学名誉教授/医学部炎症・疼痛制御学講座 教授（寄付講座）

演題：「ステロイドのエビデンス 境界領域研究のすすめ」

略歴：

川合眞一（かわい しんいち）

1977年3月 慶應義塾大学医学部卒業
 1977年5月 慶應病院内科研修医
 1979年5月 慶應義塾大学医学部内科リウマチ研究室 専修医（本間光夫教授）
 東京都立大久保病院内科 出向
 1981年6月 慶應義塾大学医学部内科リウマチ研究室 帰局
 1984年12月 米国国立衛生研究所（NICHD, NIH）客員研究員
 1987年9月 東京都立大塚病院 リウマチ膠原病科 医長
 1991年6月 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 講師（水島 裕センター長）
 1999年4月 同センター教授
 2004年4月 東邦大学医療センター大森病院膠原病科 教授（病院）
 2009年4月 東邦大学 副医学部長（2016年3月まで兼務）
 2012年6月 東邦大学医学部内科学講座膠原病学分野 教授
 2017年4月 東邦大学名誉教授/同医学部炎症・疼痛制御学講座 教授（寄付講座）
 兼任（現在）：慶應義塾大学医学部内科客員教授， 聖マリアンナ医科大学客員教授
 浜松医科大学非常勤講師
 学会役員等：現在，公財）日本リウマチ財団理事， 公財）臨床薬理研究振興財団理事
 また，日本リウマチ学会副理事長，日本臨床薬理学会理事長・会長，日本炎症・再生医学会会長，第18回国際基礎・臨床薬理学会議（WCP2018 京都）副会長など歴任
 受賞：日本リウマチ学会賞（2003）
 日本リウマチ財団アポットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞（2009）など
 最近の著書：浦部晶夫・島田和幸・川合眞一 編集「今日の治療薬2019」南江堂 2019. 1
 川合眞一 編集「ステロイドのエビデンス～使い方の答えはここにある～」羊土社 2015. 12 など

研修医発表表彰式 松澤康雄

閉会の挨拶 榊原隆次

東邦大学医学部佐倉病院 総合内科医局前期 1 年目研修医発表プログラム

(2018 年 10 月～2019 年 3 月のローテーションメンバー)

日時：2019 年 3 月 4 日 (月) 18 時～19 時 30 分

会場：7 階講堂

表彰式：2019 年 3 月 18 日 (月) カステッロ

開会の挨拶 龍野一郎

第 I 部 前期 1 年目研修医発表①

座長 野呂真人, 齋木厚人

1. 一時的ペースメーカーから恒久的ペースメーカーに入れ替えることで改善したうっ血性心不全の一例

伊藤 駿

指導医名：伊藤拓朗 (C グループ)

69 歳男性。ふらつき、呼吸苦を主訴に来院。徐脈による心不全の診断に至り、一時的ペースメーカーを挿入したが改善乏しく、恒久的ペースメーカー挿入により改善し得た一例を経験したため考察を交え報告する。

2. 完全房室ブロックの原因検索に難渋した一例

岩田 累

指導医名：戸谷俊介 (C グループ)

認知症のある 82 歳女性。気分不快感、徐脈で救急搬送。心電図にて完全房室ブロックを認めたが、前医の心電図にて自己脈での ST 変化を認めており、胸部症状を伴わない急性心筋梗塞の診断、治療に至った一例を経験したので報告する。

3. 初回 ERCP にて排石難渋し、PTCD 後排石成功した一例

江頭大樹

指導医名：山田哲弘 (D グループ)

72 歳女性。右背部痛を主訴に近医を受信し、総胆管結石を指摘され当院紹介受診。総胆管結石に対して ERCP を試みるが一度目の施行にて成功せず、PTCD 後に再度 ERCP 施行し成功した症例。ERCP の成功率とその他合併症を交えて報告する。

第 II 部 前期 1 年目研修医発表②

座長 清水直美, 大橋 靖

4. 迅速診断陰性のインフルエンザ肺炎の 1 例

北原夏美

指導医名：若林宏樹 (A グループ)

特に既往のない 42 歳男性、感冒症状前駆の重症肺炎で ICU 入院となった。迅速診断は陰性だったが病歴からインフル

エンザ肺炎として治療を開始，改善を得た．血清抗体価から A 型インフルエンザ肺炎と診断した．

5. 重度の肺胞出血を呈した顕微鏡的多発血管炎の 1 例

清水桃子

指導医名：早川 翔 (A グループ)

既往歴のない 80 歳女性．1 ヶ月間続く咳嗽，前日からの血痰にて受診．顕微鏡的多発血管炎による肺胞出血の診断で人工呼吸管理を要したが，早期のステロイド，免疫抑制剤による治療介入により良好な経過が得られた．

第 III 部 前期 1 年目研修医発表③

座長 松岡克善，熊野浩太郎

6. 内視鏡治療を施行した直腸 NET の一例

白井萌子

指導医名：古川潔人 (D グループ)

65 歳女性．下痢を主訴に受診．下部消化管内視鏡で直腸に 10 mm の粘膜下腫瘍を認め，精査の結果，直腸原発の NET G1 と判断し，EMR-L による内視鏡治療を施行．直腸 NET の治療について当院の症例と文献的考察を交え報告する．

7. 拡大胸腺摘除術を行った重症筋無力症の 1 例について

山田 祥

指導医名：館野冬樹 (E グループ)

49 歳女性．眼筋型重症筋無力症に対してステロイド治療を行っていたが，全身型に移行し治療効果も低下したため胸腺摘出術を施行した．文献的考察を交えて重症筋無力症に対する胸腺摘出術の臨床的有用性を発表する．

閉会の挨拶 榊原隆次